

2021年4月1日

全国の「新老人の会」会員の皆様へ

「新老人の会」全国連絡会代表 小山和作

皆様、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症により私たちの活動は全く手足をもがれた状態になっています。こんなにまでしつこく私たちの生活の中に入り込み、影響を与えるとは思ってもよらないことでした。しかもまだその終息の目途も見えません。

日野原重明先生が2000年に「新老人の会」を創設されて21年目を迎えます。皆様の会もそれぞれの歴史を刻み歩んでこられたと思います。事ここに至ってコロナに負けてはならないと考えます。

先生の言葉に「試練は突然訪れます。しかし、その苦しみの中に新しい命が芽を出します」というのがあります。

私たちは、10年前に東日本大震災に遭遇し、津波や放射能のため大変な被害を受けました。5年前には熊本も震度7の大地震に見舞われました。その他にも大雨による水害・洪水が各地に頻発しました。そして、今度のコロナ災禍です。

私たちの人生はまさに災禍の連続です。それでも頂いた命を大事にし、自分のためだけでなく多くの人々のため、世の中のために生きることが私たちに与えられた使命です。日野原先生からしっかりと学んだことです。

このコロナ禍の中だからこそ、先生の教えを反芻して生きる目標にしたいものです。そして、私たちは高齢者として時には“耐える”ことを若い世代の人たちに伝える責任もあります。今は間違いなく耐える時です。しかし、耐えることによって命の使命が必ず感じられてくるように思います。これも「新老人の会」のモットーです。

この苦難の時だからこそ、「新老人運動」の火を絶対に消してはなりません。私たちには日野原先生が示された崇高なミッションがあるのですから。